柳莊子後日談 三編

並木五柳綴

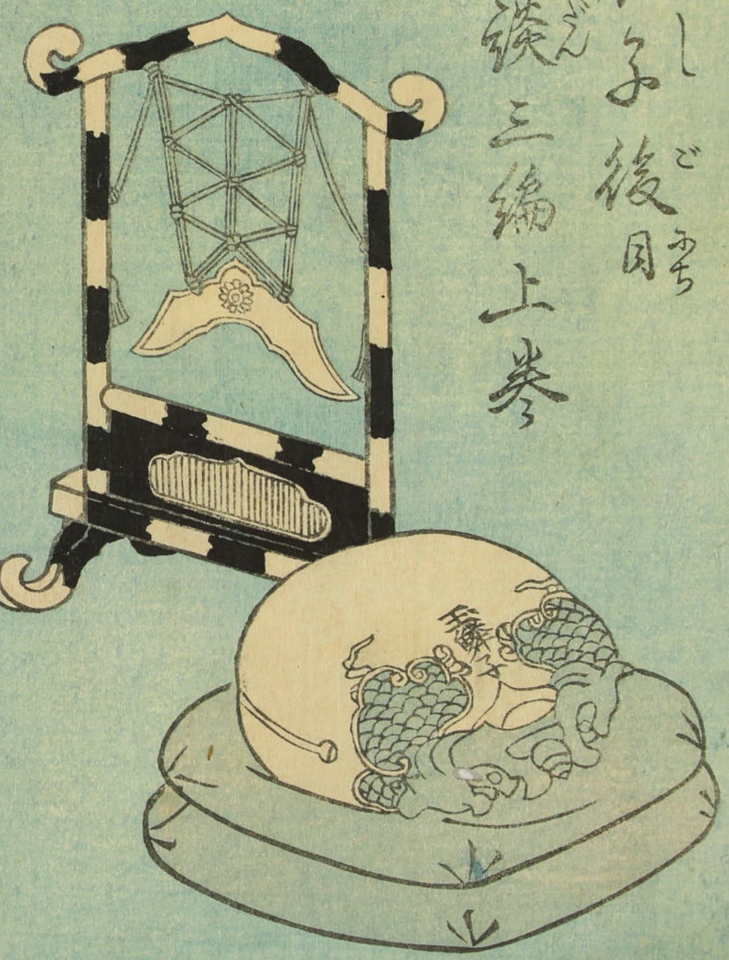
上

へ 13
3815
5

門 へ12
3815
巻 5

櫻荘子後日文談三編上巻

山形綴
魯文校
芳虎画



作者の種類多き中ゑ。狂言作りハ有情をつくして。一日を世界と定め。稗官者流ハ非情を活して。一編を一期とも其趣きハ同じれど。死活の差別大ゑに異り。彼ハ俳優の役不足衣裳の誂へ道具の注文筆頭ゑ。孜孜手足ハ番槌此方ハ架空の根無草。編者ゑ随意の役割ゑ。不の字をゑらぶ物ゑ。自由自在の机上の働き。かくまで苦心ハ戯場ゑあると。櫻荘子の三編ゑ。序文を深る刷毛つかで味噌摺坊主ゑ還俗して。胡麻すり奴の口上役。その填詞さゆうと言ふとゑ。

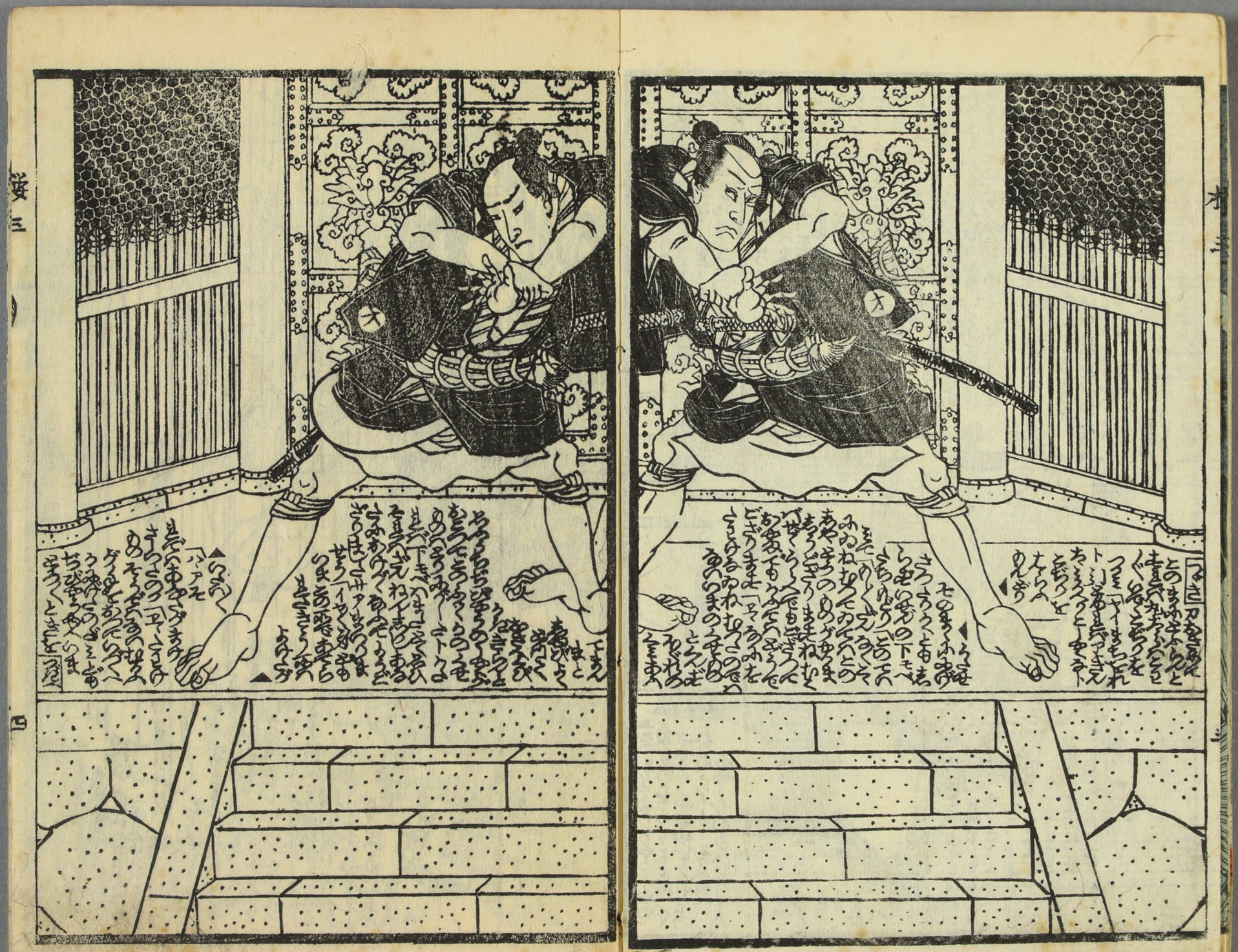
文久元辛酉初秋

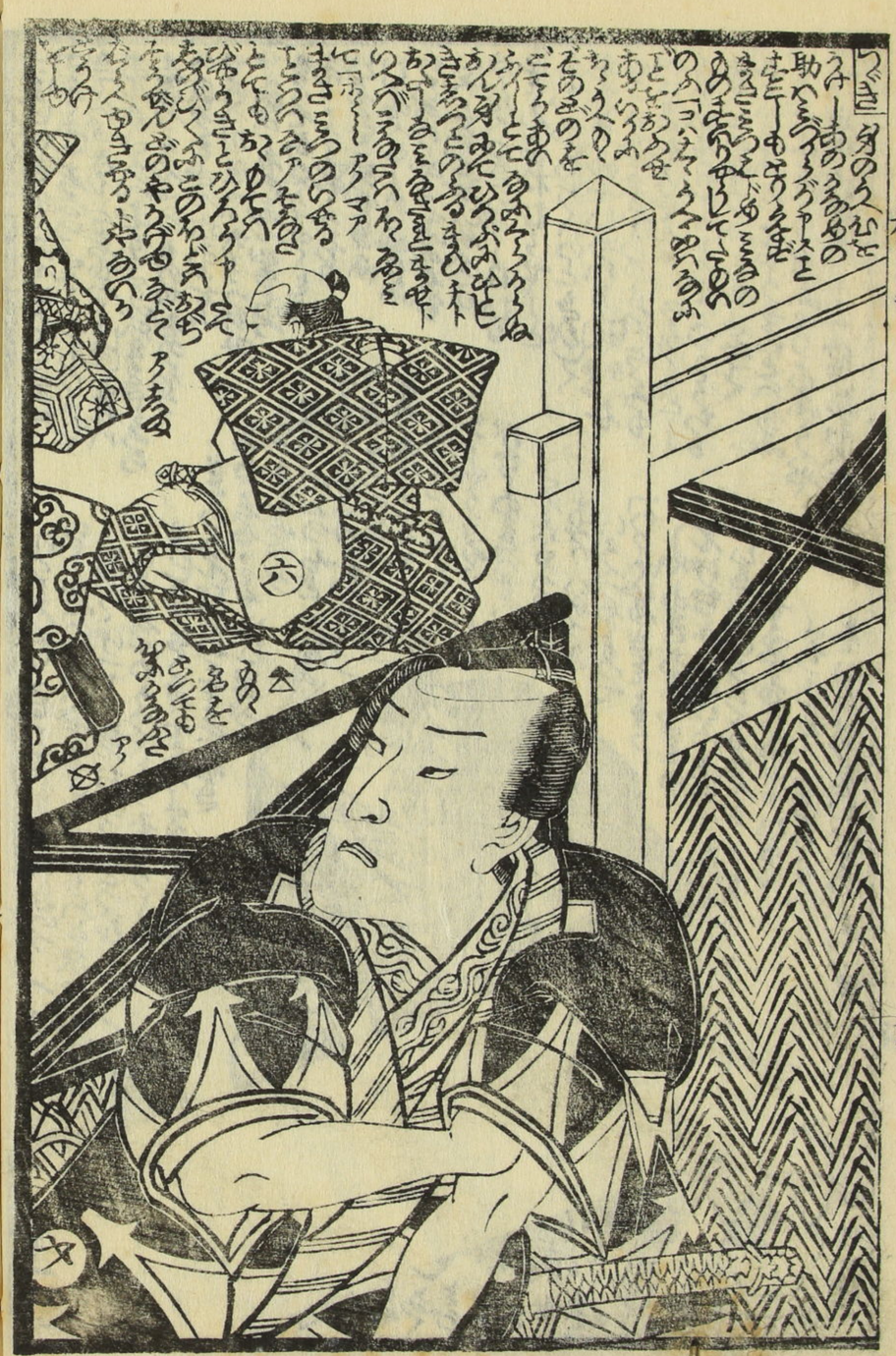
假名垣魯文戯誌

行桐才藏
笹野才藏
稲妻は加き
まなこ
雷は扶うめ
去来

茂屋の内らん
井筒屋の妻

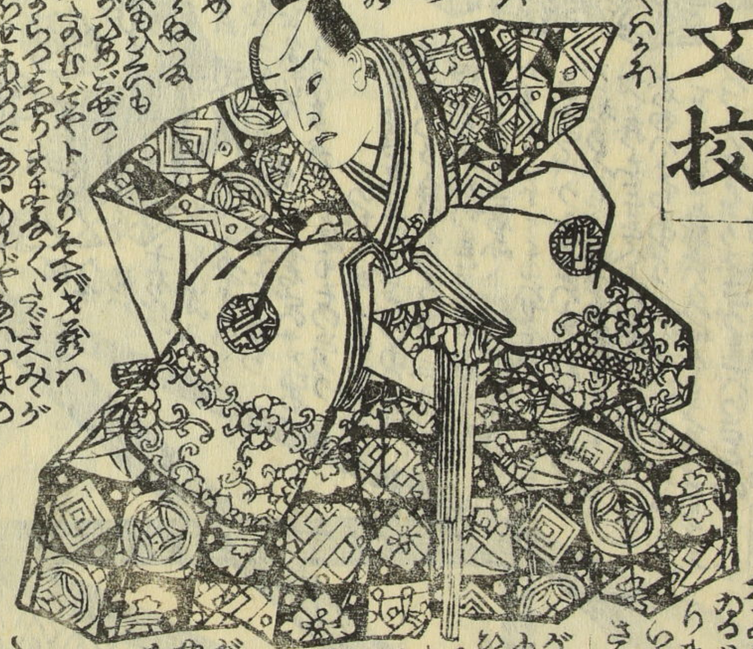
ぎおんの場





五柳綴　魯文校

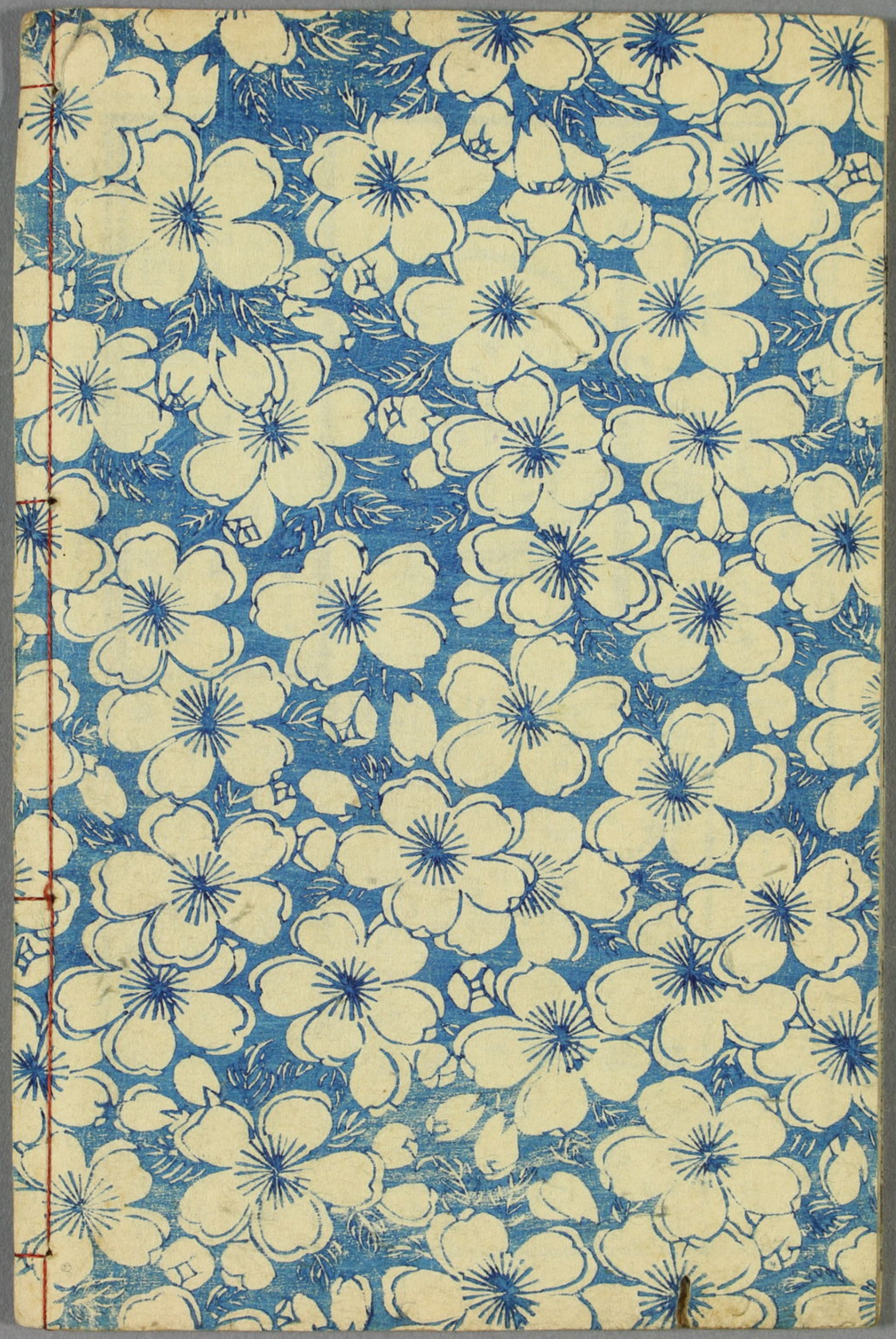
芳虎画



口中御薬　固齦散　大包代百銅　小包代三十二銅

功能
一　ぬけを
一　色をつる
一　うみを
一　たべものをうまくする
○用ひかたのくわしきは小包にしるす

清浄精製白妙　一包代廿二銅
粉ハいろをとも色ものをのの中へかけて入れ用ゐれば色白くなることをまつ

寝小便大奇薬　一包代三百銅
いつまでも年久しく病癒ぬ大人小児男女とも一包あれば治る良薬なり

無病長寿養生手引草　全二冊　京山翁著　廣重画
美玉百人一首　中本形　全一冊
紅梅百人一首　半紙本　全一冊
離鶴笹湯寿　紅摺大本
女中用文玉手箱　中本形　京山翁著
敵討白石噺　全二冊
伊賀越敵討物語　全二冊　芳虎画録
源家武勇鑑　二編　秀賀校合
三編　芳虎画録
足利絹手染紫　二十編　金水作
二十編　國貞画